

果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)越冬量調査

1 目的

果樹を加害するカメムシ類は、越冬数と5~7月の予察灯の誘殺数の相関が高いことから、果樹園での5~7月の発生量を予測するため、カメムシ類の中で、最も発生量の多いチャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法

2月中旬頃に、東予10か所、中予10か所、南予20か所の計40か所から、それぞれ1地点2か所(各1㎡)の落ち葉を採取し、越冬量虫数を調査した。

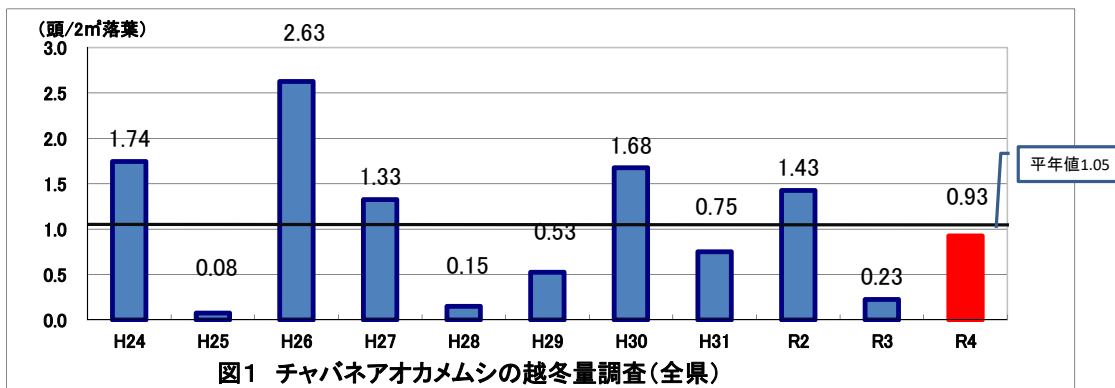
3 結果

- (1) 全県的な越冬虫数は、0.93頭/2㎡(平年1.05頭/2㎡)と平年並であったが、東予地域では1.00頭/2㎡(平年0.58頭/2㎡)とやや多であった(表1、図1)。
- (2) 越冬確認地点率は、42.5%であり、平年並であった(表1-越冬確認地点率)。
- (3) 以上の結果から、5~7月の発生量は平年並と予測されるが、東予地域ではやや多くなると予想される。

表1 愛媛県内の果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)の越冬量調査

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	平年	10年間の順位	発生程度
東予	1.90	0.00	0.80	0.70	0.00	0.20	0.90	0.50	0.60	0.20	1.00	0.58	2	やや多
中予	3.44	0.20	3.70	0.80	0.50	1.40	2.30	0.40	4.40	0.40	0.70	1.75	7	並
南予	0.90	0.05	3.00	1.90	0.05	0.25	1.75	1.05	0.35	0.15	1.00	0.95	5	並
全県	1.74	0.08	2.63	1.33	0.15	0.53	1.68	0.75	1.43	0.23	0.93	1.05	6	並
調査園地数	39	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	-	-
越冬確認地点率	53.8	7.5	55.0	52.5	12.5	22.5	67.5	32.5	35.0	17.5	42.5	35.6	5	並

※平年値は過去10年の平均値



4 防除上の注意

- (1) 果樹園への飛来は、曇天で夜温があまり下がらない日に多くなるので注意する。
- (2) 主に山林から果樹園に飛来するため、被害は山林に近い園地で早く発生し、多くなる傾向にある。
- (3) 園地で飛来を確認した場合には薬剤防除を行う。



写真1: 越冬場所である落葉を採集



写真2: 25℃の室内で飼育



写真3: チャバネアオカメムシ越冬成虫

<参考>

- ・果樹を加害する主要3種では、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの順に多い。
- ・いずれも成虫で越冬し、4月頃より活動を始め7月末頃までで生存し、モモ、ナシ等の果樹を加害する。その後8月頃から新成虫が発生する。
- ・チャバネアオカメムシは、クヌギ等の落葉下で越冬し、越冬中は暗褐色をしている。
- ・越冬量が多い年は、5月から7月の発生が多くなる可能性が高いと考えられている。
- ・4月からは予察灯、集合フェロモントラップによる誘殺状況のデータを掲載予定。